

東京藝術大学基金  
2015 年度活動報告書



## 目次

- 03 目次
- 05 学長挨拶
- 06 藝大基金 2015 年度収支報告
- 07 藝大基金 主なプロジェクトの成果
- 10 藝大基金 2015 年度ときめきの集い
- 11 藝大基金 講師より 感謝の声
- 14 学長宣言 2016



## 学長挨拶



本学は我が国唯一の国立総合芸術大学として、創設以来、世界水準の教育研究活動を展開し、数多の傑出した芸術家を育成・輩出するとともに、国内外における広範かつ多様な芸術活動や社会実践等を通じて、我が国の芸術文化の継承・発展に寄与してまいりました。

とりわけ、近年においては、芸術系大学で唯一となるスーパーグローバル大学やCOI拠点に選定されたことをはじめ、本年度スタートした第3期中期目標期間における国立大学への重点支援においても、文部科学省より最高評価をいただくなど、国家戦略を牽引するナショナルセンターとして確固たる地位を構築しています。

また、本年度、附属音楽高等学校が文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」に選定されたほか、全国各地における「音楽早期教育プロジェクト」の実施等、若い芸術家の才能を開花させるための取組を推進しております。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本の芸術文化が世界の注目を集める絶好の機会が訪れています。本学ではかねてより、障がいを持つ方々と共に生きる力を体感する「障がいとアーツ」などの芸術普及活動を行ってまいりました。今後も、日頃の教育・研究実践を礎に、2020年東京大会を契機に、我が国の芸術文化の可能性を、より創造的・持続的に飛躍・発展させ、広く世界へと展開できるよう尽力していきたいと考えています。

私は、芸術文化力にこそ、国境を超えて世界中に幸福や平和をもたらす、「無限の可能性」が秘められているものと確信していると共に、本学学生、教職員が、寄附者の皆さまと手に手を取り、ともに芸術文化力を育んでいく姿を夢見ております。

芸術を介して起こる輝く瞬間や、こころを揺り動かす感動を、皆さまとともにつくり、喜びをつなげていくという、当基金の趣旨に何卒、ご理解とご賛同を賜り、格別のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

また、当基金の活動をきっかけに、日本の芸術文化を育む誇りと喜びの輪が広がっていくことを切に願っております。

2016年10月  
東京藝術大学学長  
澤 和樹

# 藝大基金 2015 年度収支報告

## 東京藝術大学基金ご報告

### 藝大基金 申込総額 6,000 万円

東京藝術大学基金 2015 年度(2015 年 4 月～2016 年 3 月)のご寄附は、皆様からの温かいご支援により、総額 6,000 万円に達しました。深いご理解とご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

### ■2015 年度ご報告

<2015 年度収支の状況>

(単位:円)

	収 入	支 出	残 高
東京藝術大学基金	61,023,825	17,775,666	43,248,159
運用益	5,856,634	—	—
合計	66,880,459	17,775,666	49,104,793

<収入の内訳>

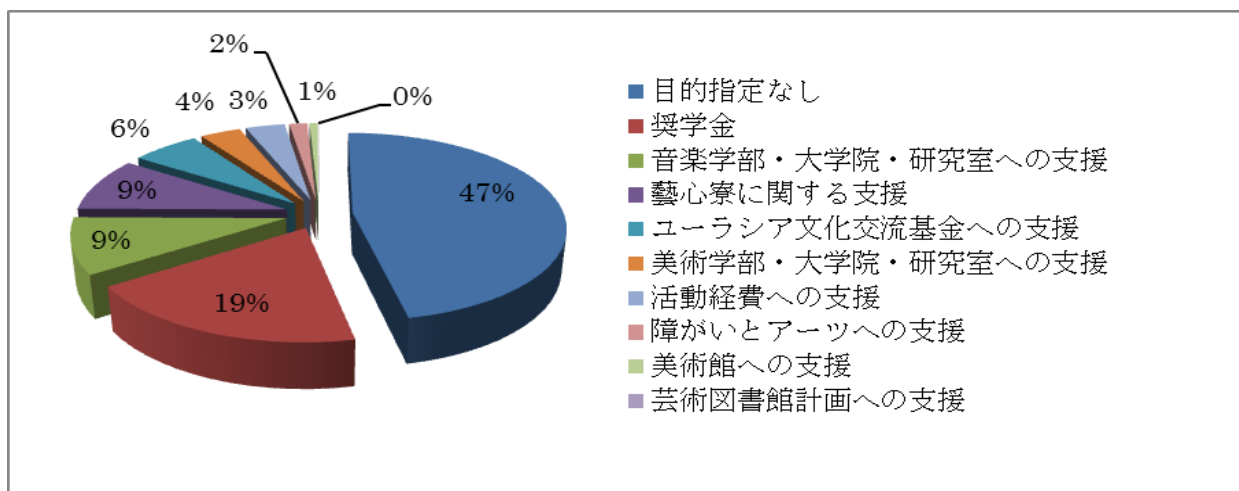
(単位:円)

区分	件 数	金 額
法人	22 件	¥ 22,802,825
個人	183 件	¥ 38,221,000



<申込み総額の内訳>

目的を指定しない寄附	基金 2,800 万円	「東京藝術大学基金」のコアとして積立、運用資源として活用
目的指定の寄附	奨学金 教育・研究支援他 3,200 千万円	主なプロジェクト <奨学金等>1,100 万円 ●海外派遣奨学金制度への支援 ●平成藝術賞 ●宗次徳二海外派遣、特待生奨学金 ●戸田海外派遣奨学金 <教育・研究支援>1,300 万円 ●藝大アーツスペシャル 2015「障がいとアーツ」 ●藝術図書館計画 ●ユーラシア文化交流基金 ●大学美術館への支援 ●音楽学部・大学院の教育研究活動支援 ●美術学部・大学院の教育研究活動支援、他 <その他>800 万円 ●藝心寮に関する支援 ●活動経費への支援他



< 称号別の件数 >

称号別件数	金額	個人	法人
特別栄誉会員	1億円以上		
栄誉会員	1,000万円以上	1	
特別貢献会員	500万円以上		1
貢献会員	100万円以上	4	2
賛助会員	30万円以上	3	3

設立当初から現在までの寄附金総額は 3 億円に達しました。(2016 年 10 月末現在)

## 藝大基金 主なプロジェクトの成果

### ■海外派遣奨学金

2014 年度、本学では文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」において、芸術系大学としては唯一の「スーパーグローバル大学」に採択されました。さらに 2015 年度には、世界水準の教育研究活動の飛躍的充実をめざすべき 14 大学として選定されました。これらに加えて今年度、音楽学部附属音楽高等学校が文部科学省「スーパーグローバルハイスクール指定校」に採択されました。

藝大はこれまでにない規模で、国際舞台で躍動する傑出した芸術家を育成するため、学生の海外留学を積極的に推進しております。そして皆様からのご寄附により、海外留学に伴う渡航費の一部を支給させていただくことができました。本学は世界へ羽ばたく人材の育成に向け、更に力を入れてまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

### ■宗次徳二特待生制度

宗次徳二様（株式会社老番屋（カレーハウス CoCo 老番屋）の創業者）から多大なるご寄附をいただき、宗次徳二特待生制度が創設されました。音楽学部（器楽科ピアノ、弦楽、管打楽 各 1 名）・大学院音楽研究科（声楽専攻 1 名）の入試成績が優秀な学生に対し、在学中継続し奨学金を給付させていただいております。2016 年 4 月には、第 3 期生が選考されました。また、第 2 期生がガラコンサートにて成果を発表いたしました。



### ■平成芸術賞奨学金

株式会社平成建設様より、継続的なご寄附のお申込をいただき、平成芸術賞が創設されました。次世代の美術界を担う芸術家及び研究者の人材育成を目的として、美術学部において特に優秀な者（当該選考年度の学部卒業見込者のうち卒業制作・論文が特に優秀な者）を各科（日本画、油画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現、芸術学）から各 1 名選考し奨学金を給付させていただいております。2016 年 3 月卒業生より、第 2 回受賞者が選出されました。

### ■藝大アーツ・スペシャル 2015「障がいとアーツ」

皆様からのご支援を受け、2015 年障がいとアーツは 5 回目を迎えました。ワークショップ「ヒカリアツメ」にて参加者が作成した作品が、障害とアーツ受講生による音楽劇「星がひかるとき」の舞台に彩りを与えました。カンボジアより視覚障がいのあるアーティストを迎えてのコンサート、また、日本を代表するヴァイオリニスト和波孝禧と藝大生による暗闇の中のアンサンブル、障害を超えるダンス等を披露いたしました。本企画は障がいを持つ方と分け隔てなく楽しめる企画となっております。引き続きのご支援とご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。





## ■ユーラシア文化交流基金

「ユーラシア文化交流センター」は、ユーラシア全体の文化遺産の保護・修復・複製制作・遺産活用に関する情報交流、文化的発展に深く貢献する国際ネットワークの構築に励んでおります。戦乱にて破壊されたアフガニスタンのバーミヤン大仏壁画は、沢山の皆様からのご支援・ご協力を受け復元されました。今後とも、最新の高精細デジタル技術を導入し、かけがえのない人類遺産の保存・保護に貢献してまいります。

## ■バロックファゴットの購入

古楽器購入へのご寄附により、バロックファゴットを購入させていただきました。音色のお披露目まで、約一年間は調整が必要な繊細な楽器の為、只今講師により調整中でございます。古楽器の教育研究につきましても、引き続き進めてまいります。



## ■醤油藝術研究所

香川県坂出市の醤油醸造会社、鎌田醤油様にご援助いただき、2014年「醤油藝術研究所」が発足し、今年で3年目を迎えました。鎌田醤油様の会社敷地内に所有する文化財・旧鎌田醤油本店には、先端芸術科准教授、小沢剛が制作した作品を展示させていただいております。



## ■大学美術館へのご助成

大学美術館開催の展覧会へご寄附をいただきました。

## ■音楽学部・大学院へのご助成

藝大フィルハーモニア定期演奏会へご寄附をいただきました。



## 藝大基金 2015年度ときめきの集い

平成 27 年 11 月 16 日（月）感謝報告会といたしまして、「藝大基金 ときめきの集い」を開催いたしました。ご寄附により購入いたしました三味線のお披露目や弦楽四重奏、また、学生より感謝のご挨拶、大学美術館ツアー等行いました。



## 藝大基金 講師より感謝の声

### 「うらめしや〜、冥途のみやげ展」本展開催記念 能楽公演を終えて（2015.8.21）

大学美術館にて開催の展覧会「うらめしや〜、冥途のみやげ展」の関連事業として能楽公演を行いました。本公演は、日本美術における〈うらみ〉の表現に焦点をあてた展覧会の関連事業として企画いたしました。能楽公演と展覧会の異分野のコラボレーションにより、「美術から能楽を」「能楽から美術を」という双方向の芸術鑑賞体験となったのではないのでしょうか。

本公演は、武田孝史教授（本学邦楽科能楽宝生流）、関根知孝教授（本学邦楽科能楽観世流）、宝生和英（宝生流第二十世宗家、2013年より本学と公益社団法人宝生会との連携・協力による）をはじめ、卒業生の方々のお力添えにより実現いたしました。

皆様のご支援をいただき、このような公演を開催できましたことに、心より御礼申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。



## 第 61 回オペラ定期公演《フィガロの結婚》公演を終えて (2015.10.3,4)

### ■ 経済的支援への感謝

総合舞台芸術であるオペラ公演にはご存知のように経費がかかります。昨今の社会状況の中オペラ定期公演を毎年開催できますことは、藝大に課せられた義務の一つ～社会への還元～という面でも大いに意義深いことと感じております。これは、偏に大学内外からの大きなご理解・ご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

### ■ オペラの制作課程

前年度(2014年)の定期公演終了後に、今年度の公演日程と出演者の中核となる大学院2年生の各声種等を考慮し、学生たちの声を最大限発揮できる曲目を決定しました。同時に指揮者・演出家を選考決定し、ダブルキャストによる組み合わせを決定します。新年度4月から音楽稽古をスタートし6月からは立ち稽古を開始し7月下旬までで夏期休暇にはいりません。8月後半には奏楽堂(2015年は第6ホール)で5日間の夏期集中稽古、9月の立ち稽古、オーケストラ合わせ等を経て、奏楽堂舞台で本番通りの総稽古(ゲネプロ)を行い10月3日・4日の公演を迎えました。

一方で、舞台装置、衣裳、照明等の打ち合わせを稽古(授業)と平行して数回行い、衣裳合わせやかつら合わせなど各セクションが準備を整えます。公演一週間前から各セクションとも公演会場である奏楽堂での作業となり本番を迎えております。

### ■ 公演の成果など

歌手(出演学生たち)は、オペラ全曲を集中して稽古し本番を経験することで歌唱・演技表現の深みが増すものです。今回も大学院生が好演し、藝大フィルとの共演が完成度の高い公演を実現しました。指導陣・裏を支えた下級生たちの尽力も多大で、オペラそのものが小社会を形成している実態がここにあります。これら一連のオペラを創るという長期に亘る経験は、人材育成という面でも大いに成果があると自負しております。(補足ですが、公演はダブルキャストですので各学生にとってはたった一回の出演となります。オペラに限ったことではありませんが、観客を前にした本番経験を通して各学生が大きな成長をみることを思いますと、一つの例ですが一昨年まで丸ビルで参加させて頂いておりました「藝大アーツ in 東京丸の内」でのオペラ・ハイライト公演など、復活して頂けないものかと願っております。)



## 東京藝術大学・海上自衛隊東京音楽隊合同演奏会

～東日本大震災復興に寄せて～（2016.2.14）

東京藝術大学音楽学部と海上自衛隊東京音楽隊の共同主催による「東京藝術大学・海上自衛隊東京音楽隊合同演奏会～東日本大震災復興に寄せて～」を、奏楽堂にて開催いたしました。

前半は、手塚裕之隊長の指揮による海上自衛隊東京音楽隊の演奏から始まり、三宅由佳莉3等海曹のソプラノ独唱と吹奏楽の「祈り～a prayer」をはじめ、「吹奏楽のための『群青』」等が、隊員の司会進行を交えながら披露されました。

山本正治教授の指揮による後半の藝大ウィンドオーケストラステージは、「陽はまた昇る」「フェスティバル・ヴァリエーションズ」に加え、「バグパイプ・ファンタジー」では客席後部からバグパイプとスネアドラムが登場する演出が行われ、会場を沸かせました。

東京藝大管打楽科と福島県伊達市の小・中学生は、2012年より「吹奏楽きらめき事業」を通して音楽の交流を続けています。今回の演奏会には、その「吹奏楽きらめき事業」に参加し学んだ伊達市の高校生も3名、最後の合同演奏で同じステージに立ち、「アルメニアン・ダンス パート1」等を共に演奏しました。

東京音楽隊と藝大ウィンドオケ、双方のメンバーと伊達市の高校生が一つの舞台上で共に奏でた音楽の、その迫力のある音色は会場に足を運んでくださった約1000名ものお客様の心に強く印象を残したことと思います。

今回の演奏会の開催にあたりまして、多くの方々のご理解ご協力を賜りました。そして何より、常日頃より温かいお力添えをいただいております皆様のおかげさまを持ちまして、本演奏会を成功させることができました。当日ご来場いただきました会員様、また、わざわざ当日お並びいただいて整理券をお求めいただいた会員様も含めまして、心より御礼申し上げます。



## 東京藝術大学 学長宣言 2016 ～芸術の持つ無限の可能性～

東京藝術大学は、創設以来、我が国の芸術文化の継承・発展に寄与するとともに、国際社会を指向した教育研究を展開し、国際舞台で活躍する数多の芸術家や教育者、研究者を育成・輩出することを通じて、世界屈指の総合芸術大学としての地位を確立してまいりました。

近年では、文部科学省の国立大学機能強化事業をはじめ、スーパーグローバル大学やCOI拠点等の採択を契機に、美術、音楽及び映像の芸術諸分野において、世界水準の教育研究活動を展開しており、藝大にしかできない“芸術文化”という独自の登頂ルートで、世界を相手に伍して競い、“世界の頂”を極めるべく尽力しているところです。

本年度からはじまった第3期中期目標期間においても、世界トップアーティストの戦略的育成等のグローバル展開を推進するため、新たな大学院組織整備をはじめ、海外一線級アーティストユニット誘致による指導体制強化や国際共同プロジェクト等に鋭意取り組んでいる他、国際舞台への飛躍を視野に、国内全域におけるアートプロジェクトや早期教育プロジェクト等を展開しています。

これらの取組については、文部科学省等学外からも高く評価されていますが、他方、昨今の行財政事情等を踏まえると、大学を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあると言わざるを得ません。

しかしながら、私は、芸術文化力こそが、国家の礎・国力の源泉であり、芸術には、国家国民を豊かにし、創造性に満ちた社会環境を実現し、国境を超えて世界中に幸福や平和をもたらす、「無限の可能性」が秘められているものと確信しています。

現在、様々な課題が顕在化している中、困難な時代だからこそ、芸術の持つ無限の可能性への期待や、芸術大学が果たすべき役割が今後一層高まっていくのではないのでしょうか。

当然ながら、芸術の魅力や素晴らしさ、芸術大学の価値・存在意義については、我々自身の力で証明していく必要があります。国民や社会からの正当な評価、相互理解を得ていくためにも、国際動向や社会的ニーズを踏まえた先見性を持ちつつ、オンリーワンの強みや特色を活かした、訴求力ある諸活動をダイナミックに展開していく必要があります。

そのため、人材育成や研究開発、社会実践活動等を一層強化するとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本の芸術文化が世界の注目を集める絶好の機会を活かし、文化プログラム等多様な活動を組織的に展開して国家を先導し、さらに、これを通過点として、芸術の持つ可能性を、より創造的・持続的に飛躍させていく所存です。

決して現状に甘んじることなく、絶えず挑戦し続け、新たな創造へと繋げていくことで、国家戦略を牽引するナショナルセンターとしてのプレゼンスを一層高め、国家繁栄、世界の芸術文化発展に寄与していくことを、学長として、ここに宣言いたします。

2016年10月

東京藝術大学基金事務局

東京藝術大学 渉外事業企画室内

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

TEL : 050-5525-2400 FAX : 03-5675-7760

email : development@ml.geidai.ac.jp

URL <http://fund.geidai.ac.jp>

